



## 2008年 採蜜活動報告

晴天の屋上から見上げると、キラリ、キラリ。太陽の光を浴びて「銀座」が金色に輝いて飛びまわっています。今年で3年目を迎えた銀座ミツバチプロジェクト。毎週末の採蜜活動を(養蜂アシスタントの私達が)レポートします!



作業着背中「銀座ミツバチプロジェクト」ロゴマークの上で「チュー」する銀座ち達(外勤バチが内勤バチに口移して蜜を渡しているところです)。

### 採蜜時は正装で

採蜜時「銀座」に敬意を払い白い作業服とベール付き麦わら帽子で正装します。これはミツバチの黒い色を攻撃する性質から身を守るためです。屋上に集まったいろんな職業のメンバーは一人前の養蜂家に変身します。そしてミツバチの体温や感触を皮膚感覚で確認するため、手袋は使いません(藤原師匠の教えの1つ)。手のひら、指先に神経を集中させて採蜜作業の始まりです。

田中さん「銀座」さんお仕事中止の礼。さくて、今日ほどのくらい採れるかな?」

高安さん「今週はお天気もよかったです。結構いけるんじゃないですか」

福原君「今年はユリノキ、トチと二気に咲き始めているから花と追いかけてこの採蜜になりそうですね」

田中さん「ソメイヨシノがちよつと少なかったから、『銀座』さん頑張ってくれよ!」

### ミツバチのリズムでゆっくりと

数万匹と飛び交う「銀座」の中に入るのはちよつとひるみます。天気がいい日はブンブンという羽音と共にミツバチが起こす風を感じます。巣箱に近寄るときは、「ゆっく、ゆっく」とミツバチのリズムで「ね」

ミツバチは素早い動きに対して

攻撃されたら勘違いして、反撃するからです。歩くミツバチを踏まないよう、リズムを乱さぬよう、ゆっくした動きを心がけます。

はち子「あら?お客さん?」

ハチ代「はち子!例のヤツらよ!」

はち子「あ〜ウワサの方々ネ〜♥」

ハチ代「も〜何言ってるのよ!はちみつドロボーよ」

はち子「ヤダはち子つたら、ドロボー呼ばわりして」

ハチ代「だってそうじゃない。私たちが先祖代々一生懸命集めた蜜を

持つていくのよ!」

はち子「あら〜でも全部持つていっちゃう訳じゃないでしょ。ちよつとぐらい御裾分けしてあげてもいいんじゃない?」

ハチ代「まあね。ぐうたら雄バチにタダ飯されるよりマシかあ」

働きの女の子

「カワイイ!」この健気で愛らしい働きバチは、みんな雌バチなんです!

掃除係、食事・育児係、巣房建築係、蜜管理係、警備係、蜜収集係、みんなで業務分担する、まるで会社のようなです。働きバチの寿命は40日程度。現在は銀座生まれ、銀座育ちのミツバチが活躍しています。雄バチはというと、女王バチと結婚することだけを夢みて、食べる、寝る、女王バチ探しの日々を過してしまふ運命なのです。



作業の際には燻煙器でミツバチに優しく煙をかけ、おとなしくさせます。

モクモクモクモク……

はち子「あら?煙?煙よ!」

ハチ代「何!?煙!急いでお腹に蜜ためて!よろけちゃうよ!」

ハチ代「は、はち子、お腹いっぱい動けないわ!」

はち子「…私も…満腹でまったりだわ!」

### 煙は苦手

ミツバチは煙をかけられるとおとなしくなります。そつと巣箱のふたを開け、隙間から燻煙器で煙をかけられて驚いたのか、「ビービー(BEE)」とミツバチが羽を振るわせます。だから英語で「BEE」って言うんですつて!

### 花蜜はハチミツにあらず

外勤働きバチが花蜜を集めて体内で分解し、内勤働きバチに口移して渡して(巣の中でチューして



ユリノキは、英名をチューリップツリーといい、花卉内側の明るい橙黄色の部分からたくさんの蜜を出します。